

第2回 鎌倉市観光基本計画策定委員会 会議録

日時；平成18年1月20日(金) 14時から16時10分まで

会場；鎌倉市役所2階 全員協議会室

出席委員；大嶋委員、大津委員、城戸委員、國生委員、小西委員、菅原副委員長、
中根委員、浜田委員、藤川委員、古谷委員長

出席職員；進藤部長、植松次長、宮田課長、中野課長補佐兼担当係長、茶木副主査

会議の概要；

基本理念、基本方針を考えるにあたり、各委員が鎌倉の観光を今後どうしていきたいかについて、10年先だけではなく、20年、30年といった長い期間を考えた上での意見をを出していただき、議論された。

議事の概要；

1. 開会のあいさつ

2. 庶務事項

委員長；

次第2の庶務事項、会議の公開と第1回会議録について、事務局説明をお願いします。

課長補佐；

会議の公開の状況は、本日の会議を公開するということで広報かまくら1月1日号で傍聴者募集を行いました。傍聴希望者はありませんでした。また交通機関の遅れの影響でまだ来てませんが、後ほど観光基本計画策定調査の事務を行っている慶應大学の方がいらっしゃいます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。郵送では「第1回観光基本計画策定委員会の会議録」と「資料集」の2つです。本日配布しました、資料1は鎌倉の魅力等のご意見一覧、資料2は国土交通省の観光政策審議会の答申の要旨をホームページからダウンロードしたもの、資料3は観光のまちなか魅力度等ニーズ調査の抜粋、資料4は外国人旅行者接遇研修会のご案内の文書、以上です。

会議録につきましては、先日確認をしていただき、訂正してまとめました。後ほどホームページに掲載をしていきたいと思いをします。

3. 審議事項

(1) 新たな基本理念、基本方針について

委員長；

それでは次第3、審議事項ですが、今日の我々のミッションとしては、今後10年位の鎌倉の観光基本計画を作るにあたっての大きな話として、基本理念や方針を自由にご議論していただきたいと思いをします。今日は話をまとめる方向ではなく、次回3回目で基本理念、方針

を集約させていけばいいかと思っています。

今日は理念や方針について比較的大きな10年、30年40年でもよいと思いますが、鎌倉の観光をどうされたいかということ積極的に議論していただければと思います。特に鎌倉の魅力とか風格といったキーワードがあると思いますが、そういった事について議論していただきたい。

課長補佐；

それではまず、お配りした資料集について説明させていただきます。なるべく議論の時間をたくさん取りたいと思いますので、省略しながら説明させていただきます。

本日議論いただくのは、現計画でいうところの基本理念や基本方針を考えるにあたっての共通認識を持って頂きたいということでの説明になります。基本理念は、「住んでよかった訪れて良かった」で、6つの基本方針とあわせて、これらの部分を見直していくのかどうかについて調査の中間報告をもとに説明します。

まず、資料集の1番目としては、現在慶應大学にお願いしている観光基本計画策定調査の中間報告を抜粋したもので、3つの調査から成り立っています。1つは観光客の数と観光客の意識調査、2つ目は市民意識調査で、無作為抽出の市民2,000人を対象に行った郵送によるアンケートの結果で、3つ目は事業者意向調査、それぞれの事業者ごとにヒアリングさせていただいた内容をまとめたものです。

観光客の意識調査は、観光客数の入込調査に合わせて聞き取り方式で調査したもので、919件のアンケートをまとめたものになっています。特に11p、鎌倉の観光関連施設の満足度ということで、観光客の方がそれぞれ鎌倉に来る前の期待と比べてどうだったのかについては、「非常に満足」「やや満足」という方が合わせて50.6%で、全体の約半分の方が来られて満足していただいています。下のグラフで、初めて来た方はどう思ったのかですと、「非常に満足」「やや満足」を合わせて63.5%の方が満足を感じています。最初のイメージの良さが、リピーターとしてその後つながっていくのを示していると思われます。逆に「公衆トイレの整備清掃」は満足度が低い結果となっています。

次に市民アンケートの回答は923件で、46.2%という高い回収率となっています。19p、観光客による日常生活の影響はどうかという質問に対し、「マイナスの影響がある」と回答された人は75.6%。「プラスの影響がある」は66.4%で、若干ややマイナスイメージを感じられている市民のほうが多いようです。

20p、どういうところがマイナスの影響なのかにつきましては、「交通渋滞」「駅前や歩行者による混雑」「街中の散乱ごみ」という順番となり、プラスの影響としては、「まちに賑いがある」「鎌倉のブランドイメージが高まる」ということとなっています。22p、観光関連施設に関する満足度としては、満足の低い部分として「公衆トイレ」「宿泊施設の数、サービス」といったことになっています。

25p、鎌倉市の経済にとって観光産業はどのような位置づけかとの質問では、「とても重要である」「やや重要である」が合わせて87%と非常に高い率となっており、市民の方も観光産業を重要であると認識されていると思われます。

26p、地域の活性化にとってどうかの質問には、「とても貢献する」「やや貢献する」が合わせて80.1%とかなり高い率となっています。

29pからは、事業者の意向調査の結果となりますが、10の団体を対象に、グループインタビューという形で行いました。それぞれの団体ごとのご意見等は、次ページ以降にまとめておりますが、ここでの説明は省略させていただきます。

この調査は、今年度中には報告書として提出されますので、またご報告します。

2つ目は、委員に伺った意見をカテゴリーごとにまとめたもので、本日お配りした資料1

で説明いたします。

資料1は、左から委員の意見、観光客の意識調査、事業者の意向調査、市民アンケートの結果で、それぞれがどのように考えているかを示したものです。観光都市鎌倉の魅力については、委員は、「歴史、文化と環境自然、大都市定住権がそれぞれ一流の資源、機能としてバランスが取れている」という意見に集約されると思いますが、「歴史ある神社仏閣の存在を海山の自然が包んでいる」「明治以降の文士文化」「特に東京の通勤圏の都市」というのが主な意見でした。

観光客は、「ぜひ住んでみたい」「暖かくほっとするところ」「まちがきれい」とゴミもなくきれいと感じているようです。事業者は営業という立場から、「国内外を問わず知名度が高い」「交通の利便性」「文化遺産が狭い範囲で集約されている」「ユニークで個性的な店舗やレストランが多い」となっています。市民アンケートの結果では、「古都鎌倉としての歴史的背景」「神社仏閣などの史跡」が高い率としてでています。

2番目の都市観光として欠けるものは何ですかという問には、ほとんど共通してハード的な部分で、「公衆トイレ」「交通渋滞」「案内標識が足りない」という意見となっています。

鎌倉らしさのイメージについては、委員のみですが、「情緒」「上質な品格と知性」「ゆったりとした癒しを感じることができる土地、文化、香り」など。

鎌倉のあるべき姿とはどんなイメージかの問では、委員は「鎌倉らしさを行政や民間、市民が共有して意識して行動すること」「心のやすらぎを取りもどすことができる所」など。観光客は、「観光地化しない観光」。事業者は「ホスピタリティーにあふれた観光都市」「海の魅力あるいは、湘南のイメージ」。市民アンケートでは、「昔ながらの古きよき鎌倉のたたずまいを楽しみたい」「市民の豊かな暮らしを前提にしたものが良い」という意見がありました。

これらの意見を参考に、皆さんの共通認識を図っていただきたいと思います。その他、本日配布した資料については、今後の参考にさせていただければと思います。

以上です。

委員長；

説明資料の中で何か質問などあればどうぞ。鎌倉の観光の現状はどうなのか。観光客、市民、事業者の方がどう思われているのかということもありますが、今後、15年から20年位を考えてみますと、観光をめぐる環境が変化するという事も踏まえて議論をしていただきたい。

委員長；

ひとつは外国人観光客が増えるということ、これは国の施策として出されているということもある。また鎌倉では宿泊観光客数が少ないとそもそも言われているが、日本全体として1泊2日型の観光がここ5年位大きく減ってきている。

一方で、団塊の世代がリタイアする中で1泊2日型の観光をするということより、どこかに住んでみたい、ロングステイしてみたいといった新しい形での観光と一時的な居住とを組み合わせるライフスタイルが出てきている。観光需要の話では、観光のサービスを供給する側の視点から見ても、これまで、行政に観光サービスを依存してきたが、日本の他の観光地を見ても行政だけでなく、官と民がうまく役割分担したり、NPOがハシリティーの役割をするなど、非常に多くなっている。

これまで観光需要追従型に観光政策を後手後手に行っていたこともあるかと思うが、需要追従型で無い、新しいタイプの観光施策が求められるのではないと思われる。観光をめぐる環境の変化を鎌倉の中で観光や観光客というものをどうとらえるか、今後のマスタープランを作る上で出していく必要がある。どこの観光地でもみられるが、ごみやトイレ、ベース

となるインフラの部分についての部分を議論する場合には、慢性的な交通渋滞についても、あるべき姿を議論するうえでは大胆に変えるといった議論も必要である。

副委員長；

1泊2日が減ったとして、それでは何が増えているのか。

委員長；

これから増えると予想されるのは、長期滞在といわれる1カ月、2カ月くらい住んでみたいというような、例えば、旅行会社が振興している北海道、沖縄などに花粉症の時期に花粉症が嫌いな人が行き、そこで仕事もするようなことで、1世帯が2地域に居住するとか、働くということが増えてくる。潜在的な需要としては伸びてくると言われている。

例えば、鎌倉でもそういったことを受入れるケースを、旅館の中でロングステイをするなどの受け皿が必要になってきたり、また、お寺でIT機器が揃っていればベンチャーをやっている若い人がお寺の中で仕事をしながら、都内にも住むが鎌倉にも住み、観光もする。そういうライフスタイルの変化はサービスを提供する側が作っていける。

事業者のヒアリングの際に、ハイカーがたくさんのごみを捨てる。何度も鎌倉に来ているのでお金も落とさないと話していた。しかし最近では健康に非常に関心がある観光客の層は、自分の健康を管理して増進するためにいくらでもお金をかける。ロハスなどと言われ、健康と持続可能な生活スタイルを享受したいと思えばいくらでもお金を払う。

鎌倉で、鎌倉ブランドの野菜とか無農薬の野菜をブランドとして売っていて、産地で食べられるところがあればハイキングにも来る。鎌倉の新たな観光ライフスタイルを基本理念というか方針の中に入れてはどうか。

副委員長；

単純に、日帰りが増えているというかそういうことではないのか。

委員長；

日帰りというか観光地によるが、鎌倉に似たところはだいたい変化しているが、そんなに大きな変化はないと思う。外国に行く観光客は増えているが、日帰りはそう大きく変化はしていない。

副委員長；

明らかに、1泊2日は減っているのか。

委員長；

減っている傾向にある。これまで景気が落ち込み気味だったということもあるが、今後ドラスティックに増えるかというのはそこまではどうかと思われる。

副委員長；

まさに市民の方々からの意見そのものだったのが、資料集の中にあったが、来て欲しいけれども来てもらっては迷惑。まさにこれをどうしていくのか。観光客が来てマイナスの影響が75%、プラスの影響も66%ある。まさにここに集約されていると感じている。お出でいただけることは門を開いている者としては大歓迎だが、それに伴うマイナスもあり、特定の信者方からは閉めた方がよいのではという話もある。これをどういう風にクリアしていくか課題である。

委員長；

これに対しては、どういう方々に鎌倉に来てほしいのか、どういう方々に鎌倉はおもてなしをしたいのかということではないでしょうか。

委員；

観光客のニーズに合わせていくのか、鎌倉の持っているものを前面に出して、そういうお客さんに来てもらおうとしているのか。そのへんもひとつの視点ではないか。年間2000万人とか1600万人とかいわれているが、実際にこの狭い街中にこれだけの人が来ることに無理があるという事が、だいたい共通認識されているのではないか。

それに対し、もっとこちらがディレクターというか、この会議が継続的にポリシーを持ってディレクションしていく所が、議論になるし解決策ではないかと思う。

ニーズに合わせると右往左往してしまう。鎌倉とは何なのかというものをもう少しきっちり打ち出していく。20年ではなく、もっと長いスパン30年位を考えていくことができれば、大変難しいがよいのでは。

委員；

市民アンケートの中で、来て欲しくないけど・・・来て欲しいというのがある。この来て欲しくない理由を検証して無くしていけば、こちらの来て欲しい方が増えてくるのではないか。市民としては賑っていないと寂しい。しかし、小町通りとかはお正月、土日は混んでいて歩けないので行かない。車ででかける場合も134号線は避ける。市民はそういうことを分かっているので、マイナス面をなくしていく方法が何かあれば良い。

委員長；

海外の例を見ても、交通渋滞を減らしたければ、134号線を地下化するなどの大胆な発想やバスを都心に入れたくなければ駐車場を地下化するなどのインフラを塗り替えることも考えないといけない。一方で買い物ができるような所も確保していく。鎌倉として、キャパシティを越えているが、年間何人位受入れたいのか、その中で、受けいれるキャパを減らせても事業者が儲かるのかなど、そのバランスを考える必要はある。

副委員長；

受入れる側ということで、来る方に対して合わせて変えていくというのは我々にはできない。変えることが出来ない固定的なものが現実存在している、それにあと、どういう風にプラスアルファしていくかではないか。

駐車場ひとつとってもいろいろ相反する意見が出るため、総合的な話ができない。

委員；

各事業者にがんばれといってもなかなか統一感もない。頑張れだけでなく、それをどういう方法論によって頑張るように気持ちを興こしていくか、という意味で観光課がこの会議を取り仕切っているが、観光課と観光協会、商工会議所や仏教会などもあるが、この会議が終ったあと統一的にきちんと進めるのかどうか、そこの仕組みづくりをしていかなければ、いくら素晴らしいものを作っても、今ある計画は完璧なのになぜ進まないのか、これが問題なのだと思う。

委員長；

いくつか海外で成功している観光都市では、作った政策に対してモニタリングして、事業

評価している会議を定期的に設けている。鎌倉市はこれまで行ってこなかったので、今後のマスタープランの中で、モニタリングしてディレクターとして機能を果たしていくということ盛り込んでいくのはどうでしょうか。

委員；

8年前の計画で、できなかった事があるのが単純に疑問である。

委員長；

恐らく、鎌倉市に限らず、行政担当者や市長が代わると方針が変わる。他都市でもそう。比較的、中長期的にうまくやっているところは、総合観光課や観光局的なところで、ある程度独立した権限を与えられ、調整を図れている。

観光協会になるのかどうかは解らないが、NPOや市民団体などの任意団体を作り、市から権限を持たされて、モニタリングしているところもあるようで、鎌倉が先行的にやっていくのもよい。

委員；

鎌倉のあるべき観光基本計画の輪郭は既に見えていると思われる。それをどのように実現させていくかが、ポイントなのではないか。現在鎌倉が持っている各種分野ごとの宝物的観光資源は、把握されているわけであるから、それぞれ整理し秩序立てて位置付け、磨きをかけてますます際立たせ、メリハリのきいたポイントの明確な観光計画を作る。観光客の鎌倉に期待している観光資源に対する見方はどうなのか分析し、訪問客に見やすいように理解され易いように、いかに観光資源を有機的に結び付けながら且つ観光スポットを明確にしていくなか議論し、提案していくことが必要なのではないか。他方、市民に対しても、市行政当局が観光事業こそ鎌倉の活性化、繁栄に欠かせないものとの認識を強く持っていることを知らせ、その為に資金をまわす方針であることを理解・納得してもらう。

年間2000万人近くの訪問客があるのに、観光予算は2億円。一人当たり10円しか使っていない有名な観光都市は少ないのではないかと。観光対策にもっとお金を使う。撒くものは撒く。使うために、収入をどう計るか、資金をどう調達するか。先程、観光客の長期滞在の話がありましたが、東京に近く又奈良京都に比べ狭い鎌倉市では、海浜を除けば、ロングステイ客は少ないのではないのでしょうか。外国人客が増えれば通訳等の問題にも取り組む必要があるし、抱える問題は多岐広範であり、分野別に分けてまとめていかないと、大風呂敷を広げるだけでは、対策の具体化は難しいのではないかと思う。

委員長；

スケジュール的には、分野別に分けての議論は後で良いと思っている。今後マスタープランを作るなら、継続的に問題を議論できるところを盛り込んでほしいところが今日の議論の流れです。

委員；

観光客が期待しているのは、歴史的神社仏閣、文化的史跡、風光明媚な自然で、これ程そろっている処は他所の観光地にはない長所である。どの様に活かし直すか。現状では、ほとんど海辺へ行って遊ぼうとは思わない。

委員；

海岸は、地形はさわれないが見直せる場所ではないか。今のままの海の家は何年位やって

いけるのか、市民や観光客の方々は海の家作りはこのままで良いのか、このままではいけないとか、将来こうなって欲しいなど、具体的に聞きたい。

養浜対策を望んでいるが大変なお金がかかる。しかし、10年、15年、30年と海は長い展望ができる場所だと思う。夏はシャワー作るが、年間通してシャワー施設があっても良いのではないかと。なかなか海岸の具体策は議論にならない。

委員長；

15年20年位で、海岸をどうしていきたいかのビジョンはあるか。

委員；

世界的に通用する海岸であるべきで、今の海の家スタイルではいけないのではないかと考えている。

夏のシーズンに海の家を建てて商をしていくには、今のスタイルのようであれば採算がとれない。グレードアップするには鎌倉の方々が海岸をこういう風にしたいという考えを入れていきたい。

委員；

134号線に隣接する地域を、生態系に注意を払いながら自然と共生した良い開発を行って滞在型の観光がゆっくりできるリゾートとしてのエリアを築いて欲しいと考えている。こういう話をする、大勢の方がイエスと言ってくれるが、大きいものをつくるとハレーションが起きるが、そういう意味ではなく素敵なエリアとしてである。

委員；

6月になると海を家の建築がはじまりますが、子どもを持つ親の立場からは、今のままの海の家では、海の家はいらないと思う。安心して子供を泳がせられる海の良い例としては熱海の海岸だと思う。そこには海の家はない。現状は、風紀の面で子どもを海には行かせたくない。江ノ島などはひどく、片瀬地区には風紀パトロールしなければならないといった状況になってしまっている。鎌倉はそんなにひどくはないと思うが、海の家が本当に必要かどうか。

委員；

口に出さないだけであって皆さんそう思っていると思う。なぜ海の家が建つのかなと自分も以前は思っていた。しかし今は不快感のない海の家を作っていこうと思っている。

お客さまと自分とは違うが、昔ながらの情緒があるものも趣きがあって良いが、個性のあるものがあるのも良いのではないかと考えている。

現状が独特の鎌倉らしさではないかとは思っているが、鎌倉の大事な資源である海に夏のシーズンの2カ月の間だけ海の家が建っているということが、将来どうなっていくのか。

基本的な観光を考えるにあたって、鎌倉の今のような海の家はいらないと思う。風景にあったものを建てるなどは理想で、個人が営業しているので長い時間がかかるが、目標ないとずっとこのままになってしまう。

姉妹都市のニースには海の家はないが、何か学ぶところはないかなと思う。

委員；

日本に海水浴場といわれているところは、年間1万人以上来るところで約600位ある。3年に1度、環境省が日本の水浴場の選定をやっているが、なぜ環境省かということ、海水浴

場の水質を第一に考えているからである。その水浴場選定には水質も大事だが、レスキューなどの安全管理、下水、後背地や海岸線でのサービス問題や環境も、海水浴場には大切だろうということで総合的に選定されている。

日本の海水浴人口は全国的に減少しており、それは国民的レクリエーションである海水浴以外でも選択の場が広がったという意見と、個人的には自分が小学生の頃と何も変わっていない人為的な海の家やサービスの実態がある。カップラーメンの方が美味しいようなラーメンが1,000円、そのような事をしていてハワイなど見てきている人が来るわけないし、満足するわけがない。

江ノ島や鎌倉の海の家ではコンビニエンスストアを入れるなど、他ではない色々な取り組みを行っているのを知っている。環境のことや安全にすることと合わせて、お客様をもてなすことをやっていると鎌倉の海岸から全国に発信してほしい。また、海の家は海浜を占用して建てているので河川と同じで構造物が作れず、すぐに撤去しやすいものでなくてはいい。このため、あばら家的になってしまう。

抜本的な政策として、ニースやカンヌでは海岸線の幅を狭めて背後の道路をプロムナードで広げた。134号線には歩道あるが、ニースでは車道より広いプロムナードデザング、王侯貴族の遊歩道という意味だが海岸線に突き出して歩く人のための環境を作った。その道路の下に、カンヌなどでは夏の時期に海の家をテナントとして入れ、道路の反対側の一流ホテルにホテルと同じサービスやバーを有償でやらせている。

日本のように、暫定的な建物から事業者が準備して撤去してやろうとすると、夏だけの商売になってしまうが、インフラの整備で歩行者がゆったり安心して歩けるといったことを、江ノ島から鎌倉の海岸線でやってくれないかと以前から考えている。

出来る、出来ないの課題はあるが、そのくらいの抜本的な目標を鎌倉だからこそ掲げてても良いのではないかな。

委員：

海岸が整備されれば、鎌倉も避暑地といわれていたこともあるので、長期ステイの海岸の理想を目指していかないといけない。

委員；

我々は、夢を語らないといけない。その上で、その夢の姿の方向に現実を変えていくにはどうしたら良いのか、という風に議論していき、対策・手順を考えていく。例えば、白い砂浜の海岸を造るにはどうしたらよいのか、必要な資金をどう調達するか、現状からどう移行させていくのか議論を深める必要がある。

委員；

今回の議論で大切なのは、ひとつには、さらにもう10年先を我々が観光事業者、市民の立場で広い意味で語る、立ち位置というか理念をどう踏まえて、この計画を作っていくかではないか。難しい課題はあるがこういう鎌倉を目指そうということが語られるかどうかだと思う。また、変えただけでなく誰がやるのかというときには、10年前と環境なり、社会的なものはかなり変わっている。観光イコールまちづくりと言われている。インフラはともかく誰がメンテナンスをするかという、行政、事業者、一般の市民の方々が来てくれた人を大事にすることが役割の分担につながり、連携していくことになるのではないかな。

非常に抽象的だが、鎌倉観光のキーワードとしては、香り、洗練、知性、品格・品位、情緒とかが、委員からの意見に散りばめられていた。鎌倉とはその言葉にどれだけこだわられるかな。こだわると、観光もまさに大量でなく個人、早くではなくスロー、派手では

なく落ち着いた、経済性でなく心の持ちよう、などの対照的な言葉に鎌倉観光のありようがあるのでは。品格高く鎌倉の観光に取り組んでいただきたい。

委員長；

全く、同感である。

委員；

随分昔になるが、お正月鎌倉に来ると和服姿の女性が大勢いた。鎌倉には他所には感じられない上品さや優雅さがあって、そういうところに憧れていた。和服を着てお洒落して鎌倉へ行こうと云うのでなくなり、今では東京近郊に少なくなった手軽に自然をエンジョイできる処として、リュックを背中に取り敢えず鎌倉へ行ってみようということなのではないか。

これからは、鎌倉に行って寺社のムードやお茶などを楽しみたいと思わせることが大事になるのではないか。お寺さんや神社さんに、観光客をもてなす姿勢についてお考えいただきたいと、僭越ではありますが感じている。

委員；

同感で、それをどのように実現していくかを考えると、世界遺産や観光だけでは考えられないまちづくりではないかと感じている。そういったところとこの会議がどのようにリンクしていくのか、位置づけ、権限、場合によっては一緒に会議する場を設けられるのかなど、途中、他の会議の方と意見交換できうる場があれば、ひとりよがりではなくやっていけると思うが。

現実論として、皆さんが一堂にというのは難しいので、正副委員長や事務局にお願いし、我々が作ろうとする素晴らしいものが、現実的なものになるかは重要なことだと思う。

委員長；

他との意見交換をする場面などはあるか。

課長；

必要があればということになるかと思うが、この会議の結果は関連部署20カ所位を集めた検討会に意見を整理したものを報告し、原局の立場として意見などを確認している。その内容も必要に応じて報告していく。

委員長；

これまで出た議論として、調整的な機能を持たせることが必要であるということと、主に海を中心として、環境に配慮していくような施策にしていくということだと思うが、他の意見はあるか。

委員；

基本理念と基本方針が今日のテーマだが、そこだけ見ると具体性もなく、10年たってもそう変わるものではない。進捗状況やアンケート結果を見ると、トイレについて取り組みがない。企業では、プラン・ドゥー・チェック・アクションなどにより計画の進捗を確認し、中長期的な予算に反映させるケースもある。全て予算どおりに出来るわけではないが、一年を振り返ってなぜできなかったのかを公にフィードバックすれば、そこに問題があったと皆さん納得する。

やろうとする方針は整理されていたし、新たな課題としては、何を付け加えていくのかは

難しい。現在は外国人観光客の英語・ヨーロッパ圏の来日が多いが、今後はアジアからのお客様が増えていくことが課題になるのではないのでしょうか。それ以外は、この10年で出来なかった原因を調べ、実際にやれる計画をどういう組織で実現していくかのしくみを作る必要がある。

委員；

基本理念、基本方針はすでに出尽くしていると感じる。祭事では、海はみそぎのために鎌倉時代から使っているの、どのように変わっていくのかなと感じた。風土や佇まいがどういう形で残っていくのかなという点で興味あるし、新しい鎌倉を発信するということは良いし、古都に海があるのは大切な観光資源で財産であると認識している。

鎌倉時代からそうだが、海で何がされてきたか、八幡宮を中心にしたまちづくりの中で海辺には鳥居があったとも聞いている。また笠懸、流鏑馬といった神事も行われていたようで、材木座、小坪にかけては、管弦、舞楽などをやったという歴史もあるので、歴史に学ぶ点がたくさんある。

海の家は日本の仮設文化ではないか。必要な時に作って必要なくなると壊す。物を大切にするという事は日本人の心ではないか。正月の初詣の信仰は、戦後ますます盛んになり、家庭生活から消え行く家庭での正月行事と逆に、神社やお寺に多くの人が来られる。神社としては、警察や機動隊が大きな声を出して警備しており、近所の方には大変ご迷惑ではないか、観光とは何だろうということを考える。

また、普段は年間通して、2000万人が良いか1800万人が良いか、非常に贅沢な悩みで、鎌倉は黙っていても人が来るのできちっとした対応ができていない。しかし、元気のない町はだめで四季折々にお寺さんが何をできるのか、庭園をきれいにし、気持ち良くしてお迎えし、古い文化や伝統を紹介していくという流れも大切と考える。

環境の問題から池の整備をし、蛍の生息する運動を祭りとして開催している。また、七夕まつりも同様で、夜開催するとお店を空けていただけるので、遊んで帰ってもらえるようになる。正月は込み合って仕方がないが、鎌倉は1月いっぱいがお正月として捉え、関東近辺から団体客を誘致しているので、大勢の方が来てくださり、神社も賑う。まちで何かをすると、まちの活性化に繋がる。鎌倉のまちで1日遊んでくだされば、活性化するだろうという考えもあるが、それをどれだけ受入れていただけたのかを考えると寂しい気がする時もある。寺社で行うイベントとまちの活性化をどういう風にしていくのか今後考えていかなければならないと感じている。

委員；

イベントと祭りはその歴史性から違う部分があるが、特に交通や自然環境とか土地空間などに制約あるところで大勢のお客さんに来て欲しい、皆で賑いたいというイベントは、例えば島や半島の先端等での一大イベントとは矛盾していると思う。これらは、それにまつわる交通渋滞やごみ、社会的な問題が伴う。ディズニーランドなど広い埋め立て地や高速道路沿いの便利な場所ならばうまく処理できるが、やはり環境を大切にしなければならず、土地が無い、道路が狭いとなると、イベントが駄目という事ではないが難しい。

例えば鎌倉では、小イベント、手作りのイベントが一カ所でなくあっちこっちでやっていると、テーマがそれぞれで万人に受ける訳ではないが、好きな人にはすごく喜んでもらえるようなものや、時間でいうと一年に一回でなく週末になるとあちこちで地元の人が何かしている。こういう積み上げが正解ではないか。

しかし、これには手間がかかる。大きなイベントはお金かければできるが、鎌倉には素材があちこちに眠っており、地元で取りくんでいるところはたくさんあると思う。言葉を変え

ると交流の場につながる。いつもどこかで地元の手作りで、自分達が楽しむ場所として、観光客もウエルカムといったものが適していると感じている。

委員；

神社もそう大きなイベントではないが、若い人の参画を得たり、工夫をこらしている。一部では考えてくれているが、なかなか街中ではあがってこない。時間かかるだろうが、行事等を利用してほしい。

委員；

今は、お宮さんもお寺さんもかなりのイベントを、それ程大きくないイベントを次々にやっておられる。しかし告知されないとかそれが周知されていない事実がある。鎌倉には、小さなサークルや NPO も多いと聞いているので、イベントは恐らく一番多いと思う。やはり、皆が横に手をつないでいないので情報が行き渡らない。せっかくのものが活かされていない。互いの共通理解できちんと手を握れない。これが大きな課題となっていくのではないか。

副委員長；

関連ですが、旧鎌倉地域はものすごく関心が高いが、大船、腰越とはかなり温度差があると感じている。今回の見直しは市内全域ですよね。大船や腰越は関係ないというイメージがある。仏教会でも温度差がある。全部含めるとなると、何かもうひとつ、つけ加える必要があるのではないか、そういうところの意見もいれなければならないのか。

委員；

9月に例大祭があるが、鎌倉市全域の神社の方に協力してもらっている。お神輿、行列はすべてご奉仕。それぞれの地域での動員方法などはどうか解らない。

委員；

鎌倉内のそれぞれの地域では、成り立ちからして色々な条件や状況の違いがあります。ついでに、旧鎌倉市街地域を基本モデルとして、鎌倉の観光を考えていけばどうか。きちんとしたモデル例を作り、各地域ではその事例にならって各々で考えてもらう。各分野ごとに基本ケース、モデル例をきっちりと構築して提示することが大切なのは。

委員長；

これまでの意見で、イベント中心として観光事業をどう展開していくか、市内における地域差を踏まえて、観光戦略をどう重点的に考えるか。広域的な連携をどう考えるかそういうことを盛り込むということでしょうか。

委員；

基本理念の中にキーワードを盛り込んでいったらどうか。例えばキーワードを冠にし、ピラミッド的な組織を構築し責任を持つというようなことか。

委員長；

理念として、3つか4つのキーワードを出して、その中で集約して資料を作って、拾いきれない部分を基本方針に追加していくことで、ここの理念で議論することは、主体を誰にす

るかを含めてである。

委員；

組織作りやプロジェクト作りやネットワーク作りといったことではないのか。

委員長；

今日の話しの中では、やはり組織というかネットワークのこと。実施の主体は誰にするかではないか。これらは、基本理念と方針のトップに置いてもよいのでは。

委員；

先日高野山に行って来ましたが、寺まちの街づくりを実感しました。以前、円覚寺を夜中歩いたことがあります、ものすごく幽玄で神秘的な雰囲気、凛とした気持ちになったことを覚えている。鎌倉の観光客も物見遊山のためだけでなく、寺社に行って何か学んできたいとか、心を癒され、豊かな気持ちになりたいなど望んでいると思うので、観光客対象に法話などを神社仏閣でもう少しやっていただけると、大きな魅力になるのではないかと。

高野山では、訪問客が宿坊で1～2泊宿泊して、感銘を受けて帰る。この点を是非取り入れるべきで、東京をはじめ関東周辺圏から鎌倉へ来る人は、一般的に非常に精神的に飢えているのではないかとと思われるので、これを提供できれば、是非訪れたいものとするのではないかと。

委員長；

観光の魅力発信というのは10年前のときは盛り込まれていなかったと思う。情報とかネットワークとか含めてうまく発信していく仕組みを作るといことはどうですか。

委員；

情報の発信ということでは、その手法は今ではインターネットということになるが、観光の場合、まちづくりと深い関連があり、観光客の求めている情報は鎌倉にはこういうものがあるという基本的な部分よりも、生の生活情報までを求めている。例えば、路地裏にしゃれた喫茶店が出来てこだわりのお茶を出すなど、従来の観光情報では扱わなかった情報を実は欲しがっている。

鎌倉に住みたいけど住めない。だけど、鎌倉に住んでいる人はどういうところでお茶を飲んだり買い物をしているのかを知りたいという欲求が高い。問題はそれを年に一回更新して済む情報ではないということで、インターネットの情報は鮮度であり、誰が支えて更新していくのかを考えると、それを全部、市役所や観光協会に歩いてやりなさいというのは無理な話になってくる。それこそネットワークを立ち上げ、ひとつの形にして配信し、常に映し出せるようなしくみ作りができるかどうかではないか。

自分もまだまだ知らないことが多い。何を指すのかを伝えるという意味では10年前と大きく違うところではないか。

委員；

自分もブログのような形で日記のように実際に出している。観光とは来てもらってなんぼかと思う。細かいところまで見えるから来たという話もあるが、秘めたところ、京都なんかはかなり考え込まれた情報発信の仕方をしている。

秘めたところ、見えないところに自分で実際に行ってみて、香りや感触を味わうといったことではないか。そういう意味では、ディレクターやプロデューサーを育てたい。そんな風

に思う。

副委員長；

鎌倉検定ができると聞いたが、秘めたるところを持ったうえでの鎌倉を魅力として出して
いけたらいいと思う。10年前と大きく変わったことは、八幡さまの前を通られて本殿に
向かってお辞儀をされる人が圧倒的に減った。以前はわざわざ自転車から降りられて手を合
わせる方もいらしたが減った。鎌倉の人自体、そういう意識が非常に落ちていると思う。

お寺にもただお参りだけに来る方も多かったが減った。観光で来るという人が多いようだ。
この辺が計画書できた頃と随分変わったのではないか。秘めたる所に精神性というのがある
が、そういうのが出せればと思う。

委員；

今の日本人の価値観やものの考え方などの原点は鎌倉時代、禅宗であったり、頼朝だっ
たり色々あると思う。今の日本の精神性のもとをたどって、つきつめていくと勉強のようにな
ってしまうが、それを面白く表現できたらと思う。鎌倉を語るときに宗教を抜きには語れな
いので、まさにここでそういうことを盛り込めたらと思う。

副委員長；

それが、住んで良かったにつながると良い。

委員；

宗教の話は伝えていかなければいけない。しかし、若い世代はお墓参りすら行かなくな
った。お宮さんやお寺は敷居が高いかどうかはわからないが、今の若い人たちに歴史の部分や
心の問題など、なぜここにあるのかなど民間の力でわかりやすく、入りやすくするのもひと
つではないか。

それが、観光的に言うとかガイド業の役割で、今の人たちは内容の良し悪しよりか、まずは
引きずり込んでしまうのも大切だと感じている。媚びることではなく、そういう伝え方をす
ると観光客だけでなく市民や一般の方々が、お辞儀の話しではないが大切にするのはもちろ
んのこと、心のつながりができていることは基本として大切なことではないか。

委員；

覚園寺住職さんの法話などを聞いた訪問客は、大変喜んでいます。最近、鎌倉宮でも宮
司さんのお話が聞ける。主な寺社で、精神的な面の教話をされては如何でしょう。

委員；

本家本元の礼儀作法は徹底的に鍛える、などは大うけする。

委員；

余り、親から躰を受けていない若い人にとっては、魅力的なポイントになるかもしれない。

委員；

本来ならば親から子へと受け継がれるはずの“慣わし・伝統”が、現代では薄れてきてい
る。若い親子の多くは、ディズニーランドへは連れて行くが、寺社仏閣めぐりは敬遠しがち。
特に市内在住者は、住んでいるから、と言うことであえては訪れない。ここが問題で、市民
が鎌倉のことをどれだけ知っているのか疑問。市民が本当に鎌倉の素晴らしさを知ってこそ、

口コミでその良さは伝わって行くであろうし、市民こそが一番の良きガイドになるのでは、と思う。

委員長；

市民が行かないと、住んで良しなど言えない。市民が観光して良ければ、観光地として紹介できるし、ここをうまくクアピールできないか。

委員；

主体の面で、民の部分でコーディネーターやキーマンは大切だが、今、白羽の矢が当たるのは団塊の世代で、2007年からブレイクするのではないか。鎌倉にはかなり意識の高いかたがたくさんいると思う。色々なテーマにひっぱり出すきっかけづくりができると、大変な推進パワーとなる。

品川区では資源はないが、品川区民対象のウォーキング大会を開催してまちを再発見するイベントを企画している。まず区民がまち中を知っていないと住んで良しに繋がらないとの考えで、見直ししていく雰囲気が必要である。

委員；

サラリーマンは定年以降、外に出なくなる人がいるようですが、自治会やボランティア活動など何かのきっかけがあると、外向的に変わる人もいる。きっかけを与えることが大切だと思う。

委員長；

今日は、理念や方針を中心に議論していただきまして、あえてまとめませんが、重要なことは、ネットワークをちゃんとプランをチェックしていくようなものに作ること、これが方針としては一番高い。次に、役割分担として、市民が主体となって観光まちづくりをするのと同時に、市民が楽しめ観光地を作る。

さらに、環境というかエコに配慮した鎌倉の新しい観光スタイルを出す。特に海岸をうまく沿った形にしていく。また、需要の平準化や分散といった調整をうまくし、市民がディレクターやプロデューサーになった組織をうまくアピールしていく。

観光戦略の中で地域的な優先順位をつけていきながら、周辺の連携を図っていく。

難しいが、鎌倉の精神性というかスピチュアリティというか、プラスアルファの風格というか、そんなものを発信できればと思う。全体的な理念として、15年、20年位を見据えても良いのではないか。

他に言い尽くせないこともあるかと思うが、事務局へお話しください。次回には、今回の話しをある程度集約して、方針から一步踏み込んで個別事業のチェックや将来の事業計画を出していただくようなスケジュールになると考えている。

4. その他

課長；

資料4の外国人旅行者接遇研修会ということで、外国人旅行者のための環境事業の一環として国交省から話が合ったものです。全国20都市を選ぶということで、鎌倉市でも開催す

るということで、2月22日、商工会議所地下ホールをお借りして、国、市、商工会議所、観光協会や藤沢市に声をかけました。

テーマとしては、アジア、アメリカからの旅行者の特徴やニーズ、旅行者への対応の違いなどです。興味ある方は、2月10日までに市へ申し込みいただければと思います。

次回の日程は、3月28日の火曜日、午後2時から2時間程度で、場所は第1委員会室です。その次の会議としては、5月の中旬ごろを目安に考えております。

委員長と相談し、本日の内容をまとめ、基本理念や方針についてはまとめさせていただき、次回にお送りしますので、次回会議で確認したうえで、個別の事業について議論していただくよう考えています。

委員；

接遇研修会の関連として、昨年まで通訳の国家試験はとても難しくなかなか受からないのですが、地域限定通訳士として、ある地域に限って国家試験として国が認定しようと変わってきた。団塊の世代だけでなく、主婦の方でも語学を活かせる場所なので、どんどん出てくださればと思います。

委員長；

長時間になりましたが、ありがとうございました。

<終了>